

男女共同参画講演会 ～住み良い地域社会をめざして～



2月19日、市文化センターで女性活動指導者連絡協議会と常陸大宮市の共催による「男女共同参画講演会」が開催されました。

講師は茨城キリスト教大学教授の川上美智子先生。男女共同参画社会形成は、人権尊重であり、個の自立、個の尊重、個の責任が重要で、最近では男女平等論から、男女個人の権利論「性別に関わらない個人としての人権確立」へ移行してきていて、今後は、男性と女性のバランスのとれた社会を築いていくことが、地域社会に求められているとお話がありました。また、参加された方からは、「大変有意義でした。」との感想をいただきました。

多くの歴史ファンが訪れました ―茨城県教育財団調査遺跡紹介展―

1月15日から2月13日まで、市歴史民俗資料館大宮館において「茨城県教育財団調査遺跡紹介展・発掘された茨城2004―ふれてみよう！楽しい考古学―」が開催され、期間中1500人を超える方々が、県内各地から出土した貴重な遺物をひと目見ようと見学に訪れ、大好評のうちに幕を閉じました。

また関連行事として行われた、国立歴史民俗博物館の広瀬和雄教授を講師に迎えての「埋蔵文化財講演会」、「遺跡見学と考古学体験」、「勾玉づくり体験」にも多くの歴史ファンが参加しました。



▲市内の小学校の5年生全員が、発掘現場と前小屋城跡を併せて見学しました



▲展示会場の様子

「ふるさとづくり活動モデル地域集落」として表彰

入松沢上集落

美和地域の入松沢上集落が、2月1日に県民文化センターで開催された「平成16年度茨城県ふるさとづくり大会」において「ふるさとづくり活動モデル地域集落」として表彰されました。

これは、昨年度に建設した「入松沢上コミュニティセンター」を拠点に、地域の活性化のために取り組んでいる様々な活動が評価されたものです。

表彰当日は、活動事例の発表も行われ、手作りのパーティー料理や25年ぶりに復活させた秋祭りの様子等がスクリーンに映し出されたときには、会場の中から歓声があがりました。これから活発な活動を期待しています。



長倉小学校の実践記録が本に

今年1月から一冊の本が書店に並んでいます。タイトルは『地域をともにつくる子どもたち』。サブタイトルとして「子どもの瞳が輝く授業・茨城県長倉小学校での2年間の実践記録」とあります。

長倉小学校は、平成14年度から15年度にかけて東茨城郡教育研究会の研究指定校として社会科、生活科の研究・実践を行っており、この実践は教育関係者等から全国的に高い評価を受けました。その実践を前長倉小学校長の木本勝司さんがまとめたのがこの本です。

本の中には、子どもたち自身が生活する長倉地区の素材を教材化しての学習活動、観察、インタビュー、行事への参加など実践の内容をはじめ、主役の子どもたちの活動とおおしめの地域への、地域の人への温かい気遣い、思いやりが生き生きと描かれています。

地域のわだい

新春は『出前寄席』で 初笑い

2月6日、新春恒例の出前寄席が美和工芸ふれあいセンターで開催されました。当日は寒風が吹く中、140人を超える観客が入りました。テレビでおなじみの東京太・ゆめ子さんの漫才、玉川カルテットさんの歌謡漫談、鈴々舎馬風さんの落語など多彩な芸と笑いに会場の皆さんからたくさん拍手が送られていました。



御前山人権のつどい

2月5日、御前山市民センターにおいて「ごぜんやま人權のつどい」が開催されました。

当日は、児童から高齢者まで約200人の参加者があり、明野町を中心に活躍する朗読グループ「はらんきょうの会」による朗読劇「はらんきょう版 茨城弁で語る女性差別撤廃条約」の公演があり、参加者は楽しみながら、日常の男女差別や男女共同参画のあり方について考えました。続いて、人権教育推進コンクール入選者の表彰や中学生による人権作文の発表があり、人権に関する意識を高める1日となりました。



緒川つ子わくわく教室

手作りチョコに挑戦！

「バレンタインデーは手作りチョコで心のこもったプレゼントをしてみませんか」という呼びかけに、2月12日、緒川地域の28人の親子が緒川総合センターに集まりました。講師にゾラーズまゆみ先生を招き、手作りチョコに挑戦です。作った作品は「フォンダンショコラ」、「焼きチョコパイ」、「おしゃやれなイチゴちゃん」。作っている最中も、鍋の底に残ったチョコレートをベロツとなめて笑顔をふりまく子どもたち。できあがったチョコレートはとてもおいしそうでしたが、その後は、お父さんやおじいちゃん、そして本命の彼にきちんとプレゼントされたのでしょうか・・・。



西塩子子ども歌舞伎 NHKホールで堂々の演技



▲演目「子宝三番叟」



▲演目「白浪五人男」

2月5・6日の2日間にわたり、NHKホールにおいて、「全国ふるさと歌舞伎フェスティバル」が開催されました。フェスティバルでは、全国各地で行われている地芝居8団体の演技が披露され、当市からは総合的な学習に取り組んでいる塩田小学校3・4年生児童による子ども歌舞伎が出演し、元氣いっぱいにはばらしい演技を披露しました。

地域のわだい

野田の山車保存施設完成

野田地区には、明治期以降、同地区の鹿島神社の例祭に上組・下組に分かれて氏子がねり歩いたとされる山車が2台あります。このたびこれらの展示保存館が完成し、2月20日、関係者が出席して竣工式が行われました。

この山車は四輪一層形式の単層型で、上組山車が明治30年、下組山車が明治12年の製作。いずれも彫師は旧鷺子村（現常陸大宮市）の小林平衛門で、それぞれに極彩色の彫刻が施されています。

なお、これらは平成16年8月に旧御前山村文化財彫刻第6号に指定されており、市文化財として引き継がれます。



思ったより むずかしい？



1月20日、大宮町食生活推進協議会による「男の料理教室」がおおみやコミュニティセンターで開催され、大賀地区から60・70代の男性20人が参加しました。この日のメニューはアジのムニエルと煮物、デザートなど。普段作り慣れている推進員の皆さんには、比較的簡単だと思われたこの献立も、「かあちゃんがないとご飯も食べられないよ」という男性たちには、かなり難しかったようで、ぎこちない手つきで包丁を握り、悪戦苦闘する姿が見られました。



山方林業研究会

新たな炭焼窯を制作

山方地域に、林業を活性化させるための活動を進める山方林業研究会という組織があります。現在は主に舞茸の培養、椎茸・舞茸の原木販売、木炭・木酢液の販売などの事業が行われています。

木炭の生産は、家和楽地内に専用の炭焼窯を制作し、地元のナラの木を材料に5年程前から始められ、出来上がった木炭はこれまでケビン村のバーベキュー施設や三太の湯の浄化設備、農地の土壌改良等に使われてきました。

この窯が老朽化したため、現在、会の皆さんにより新窯を造る作業が進められています。形を作り、繰り返し土を固める作業は根気のいるものですが、会の皆さんは根気良く取り組んでいます。新窯での木炭の完成が楽しみです。



新校の校歌は……♪

作詞星野徹さん、作曲宗次郎さん



▲握手する星野さん（前列左）と宗次郎さん（右）

現在の県立大宮高等学校と大宮工業高等学校は、茨城県が進めている県立高等学校の再編整備計画に基づき統合し、平成18年4月に新しい高等学校が開校することとなっています。

このたび、この新校の校歌の作詞を星野徹さん（詩人・茨城大学名誉教授）、作曲を宗次郎さん（オカリナの第一人者・吉丸在住）に依頼することが決定し、2月22日、大宮高校の会議室において、関係者の顔合わせが行われました。

校歌については、校訓や教育目標のようにより制訂が義務付けられておらず、県の予算措置が受けられないため、今回は統合する両校の同窓会がバックアップし、制作が実現しました。